

政策	51 学校教育の充実						
区分	妥当性	妥当	コスト削減の余地	有	受益者負担	適正	
	上位貢献度	有効	類似事業の有無	無	成果向上の余地	有	
対象	市民、保護者等						
施策が目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多彩な教育プログラムの導入により「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の調和のとれた学校教育の推進を図る。</li> <li>・充実した学校教育を支える教育体制や学校施設の確保、教育環境の均等を保つ学校の適正配置を進める。</li> <li>・地域社会が一体となった総合的な教育環境の充実を図る。</li> </ul>						
成果指標	保護者の学校教育に対する満足度・・・5年間で90%（現状値87.4%）						
目標達成状況			平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	成果指標1 [ % ]	予定	88.00	88.50	89.00	89.50	90.00
		実績	88.20	88.60	89.80		
	成果指標2 [ ]	予定					
		実績					
	成果指標3 [ ]	予定					
		実績					
	成果指標4 [ ]	予定					
実績							
トータルコスト (千円)	予定	4,351,987	4,105,814	5,788,054	0	0	
	実績	3,775,180	3,759,426	5,788,054	0	0	
内部評価	貢献度	基本方針が目指す「健やかに人を育み学び続けられるまちづくり」には、学校教育の充実は必要不可欠であり、本施策の目標達成による貢献度は高い。					
	達成状況	本施策の指標「保護者の学校教育に対する満足度」は、継続して目標を達成しているが、各単位施策の目標については、コロナの影響により一部目標が未達となっている。					
	課題	単位施策の目標未達については、コロナ禍で一部の事業が実施見合わせとなった関係で目標未達があり、こうした状況に応じた学習機会の確保を図る必要がある。					
	取組方針	保護者の満足度だけでなく子どもたち自らが進んで学べる環境づくりを進めるため、コロナ対策に配慮しつつ地域との連携を図り調和のとれた学校教育を推進する。					
外部評価	<p>全国学力テストの平均を上回るための具体的な教科別の施策を提示して欲しい。 公平性の観点から、市内学校間の学習内容や教育環境・体制のバランスについて検証が必要ではないか。 コロナ禍による影響もあると思うが、放課後教室の参加率向上のため、改善策の検討や保護者への普及啓発に努めてもらいたい。 不登校等の問題については、アンテナを高くして生徒へ接してもらい、保護者のアンケート結果も活用し、対策等を明確にして欲しい。 コロナ禍において、多くのイベントが自粛される中、給食はクラスの友達と過ごせる大切な時間であり、「とち介ランチ」の内容の見直しも含め、事業の充実を図ってもらいたい。</p>						
基本施策達成のための単位施策	施策コード	名 称			トータルコスト(千円)	達成度	
	5103	魅力ある教育環境の充実			3,641,246	100	
	5101	確かな学力の育成			427,103	85	
	5102	豊かな心及び健やかな体の育成			1,719,705	58	
	5104	一貫性のある教育の充実			4,500	0	

## 基本施策評価表 補表

施策	51 学校教育の充実		
区分	妥当性	妥当	基本方針が目指す「将来を担う心身ともに健やかな人材の育成」には、義務教育である学校教育の充実は必要不可欠であり、当該基本施策の実施は妥当である。
	コスト削減の余地	有	事業の実施方法等を工夫改善することにより、コスト削減を図る余地がある。
	受益者負担	適正	本施策は、事業内容により適正な負担を求めている。
	上位貢献度	有効	将来を担う人材の育成には、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育成する学校教育の充実は、貢献度が高い。
	類似事業の有無	無	他の類する事業はなく、代替は困難である。
	成果向上の余地	有	学校・家庭・地域との連携・協働による学校教育を推進することにより、成果向上を図ることができる。
内部評価	貢献度	将来を担う子どもたちの「生きる力」として、基礎的な学力、心身の健康、地域への愛着や誇り等を育むため、教育環境の整備、学校教育を支えるための教育体制の充実を推進する本施策の貢献度は高い。	
	達成状況	保護者の学校教育に対する満足度は、コロナ禍においても目標値を上回ることができた。コロナウィルスの影響によりいくつか事業で実施見合わせや規模縮小を余儀なくされたことで、単位施策の一部が目標未達となっており、成果指標や目標値の見直しも検討しなければならない状況となっている。	
	課題	全国学力・学習状況調査において、全国平均正答率とほぼ同程度となり、新体力テストにおいては、小学生の数値が全国平均を下回る種目が多かった。コロナ禍で従来の体育の授業ができない状況もあり、新しい生活様式に配慮した学習機会の確保をいかにしていくかが課題である。	
	取組方針	学力・学習状況調査の結果の分析と指導方法の工夫改善を進められるよう、指導主事による指導訪問等を通して、授業研修会を活性化し、教職員の資質向上を図る。新たな生活様式に配慮した学習機会の確保に向け、ICTのさらなる活用や学校生活のルールづくりなどに取組んでいく。このような状況を考慮して、次期総合計画における新たな成果指標を検討したい。	